

よこすか E C O 通信



第9号(平成25年6月)

発行: 横須賀市・環境教育・環境学習ネットワーク会議

生きものの住みかとしての里山

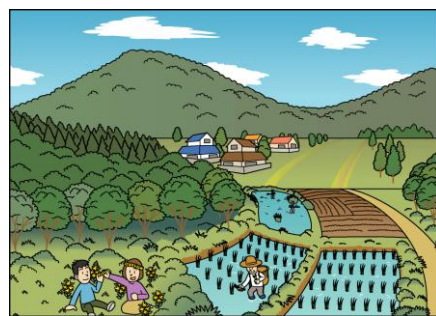
「里山」と聞いて、どんな風景を思い浮かべますか？田んぼの広がる風景でしょうか。明るい雑木林でしょうか。それとも原っぱでしょうか。里山は、人の暮らす場所と手つかずの自然の中間にあり、農業や林業など、人々の様々な働きかけによってつくられた自然環境です。人の生活のために利用される場所ですが、手つかずの自然とはちがった独特の環境をつくっていて、たくさんの生き物が生活をする場所でもあります。

人と自然との共生

例えば、大人になるまで水の中で生活する両生類のカエルやイモリは、田んぼにはった水や農業の用水路を利用してくらすことがあります。トンボやホタルといった昆虫も、幼虫は田んぼなどの水の中で育ちます。

田んぼの近くの草むらには、カエルを食べるヘビが隠れているかもしれません。また、草むらの昆虫を食べるネズミも見られるでしょう。草むらの背後には、薪や炭をとるために人が手を入れた雑木林が広がり、小鳥やネズミなどの小動物が暮らしています。小動物は、林のドングリなどの木の実（種子）や草むらの昆虫を食べています。

そして、里山の生態系ピラミッドの頂点には、フクロウやノスリといった鳥が君臨していることがあります。これらの鳥がいる場所には、そのえさになるネズミ、そのネズミのえさとなる実（種子）や昆虫などが十分に存在する、自然がゆたかな場所ということです。里山は人の生活のためにつくられた場所ですが、多くの生きものの生活もささえています。



しかし、農業や林業の衰退によって、里山の風景を見ることは少なくなっています。これらの環境がなくなるということは、そこで暮らしている様々な生きものたちの住みかもなくなってしまうということです。

里山は、人の活動によって影響を受けてできた環境ですが、そこには多くの生きものが暮らしています。「人と自然の共生」を考えると、そのヒントが里山にはたくさんありそうです。

参考 環境省 里地里山の保全・活用 <http://www.env.go.jp/nature/satoyama/top.html>

裏面には季節の生き物図鑑「里山の昆虫たち」の掲載があります。

夏の環境学習講座のお知らせ

横須賀市自然・人文博物館

＝ 企画展示 ＝

「バードカービングで作った横須賀の四季の鳥」

日 時 7月20日(土) から8月25日(日)
場 所 横須賀市自然・人文博物館(本館)



＝ 夏休み企画 ＝

「夜の昆虫かんさつ」夜の昆虫の観察と調査を体験！

日 時 ①8月2日(金)、②8月3日(土) 17:00～20:30
場 所 天神島臨海自然教育園
定 員 20名(小・中学生。小学生は保護者同伴のこと)
費 用 保険料50円
締 切 7月19日(金)

「自分でつくる！化石レプリカ」

レプリカづくりを通して大昔の生物や地球のことを知ろう！
日 時 8月23日(金) ①9:30～12:00 ②13:30～16:00
8月24日(土) ③9:30～12:00 ④13:30～16:00

場 所 本館科学教室
定 員 20名(小・中学生。小学生3年生以下保護者同伴)
締 切 8月9日(金)
申 込 希望者は、往復はがきに行事名・希望の日時・参加希望者全員(家族に限る)の住所・氏名・年齢・電話番号を往信面に、ご自分の住所・氏名を復信宛名面に記入し、博物館へ。
希望者多数の場合、市内在住者を優先。

問合先 横須賀市自然・人文博物館
〒238-0016 横須賀市深田台95
電話824-3688



横須賀市地球温暖化対策地域協議会 夏休みこども環境体験教室

日 時 8月9日(金) 13:00～16:00
対 象 小学4年生～6年生
場 所 産業交流プラザ(本町3-27A 1Fより3階)
内 容 ①地球温暖化の話、②省エネ・新エネの体験、
③地産地消ゲーム、④省エネ・新エネ キットの工作
定 員 24名(抽選)
締 切 7月31日(水)
申 込 横須賀市コールセンターへ 電話822-2500
問合先 横須賀市地球温暖化対策地域協議会事務局
(横須賀市環境企画課内) 電話822-8524

コミュニティセンター

○田浦コミセン

～おもしろ子ども体験教室～

「ペパバックにチャレンジ」

日 時 8月5日(月) 10:00～12:00
場 所 田浦コミュニティセンター4階 2・3学習室
内 容 古新聞でペパバック作りにチャレンジ。エコ意識を高めます。

定 員 24名(小学1～6年生)(抽選)
持ち物 古新聞4枚、手拭きタオル、筆記用具
費 用 材料費100円
締 切 7月23日(火)
申 込 希望者は、講座名・住所・氏名・年齢・電話番号を記載して、往復はがき・FAX・E-mail・窓口(返信用はがきを持参)で各コミュニティセンターへ。
問合先 田浦コミュニティセンター 電話/FAX861-9007
E-mail taph-bes@city.yokosuka.kanagawa.jp



市民大学ジュニアカレッジ

「“空”の博士の科学教室～そらの観測隊！」

日 時 8月3日(土) 13:30～15:30
定 員 小学生30名(2年生以下は保護者の送迎が必要)
場 所 防衛大学校(現地集合・解散)
費 用 保険料50円
締 切 7月21日(日) 20:00必着



市民大学夏期特別講座

「知って納得！LED照明～LEDの最前線～」

【東芝ライテック(株)協力講座】

日 時 8月29日(木) 10:00～12:00
定 員 抽選120名(対象者は成人) 費用 無料
場 所 生涯学習センター(ウェルシティ市民プラザ内)
締 切 7月31日(水) 20:00必着

申 込 どちらも電話、来館、生涯学習センターホームページ、または通常はがき(講座名・住所・氏名・年齢・電話番号・ジュニアカレッジは学年を記入)で生涯学習センターへ。(市内在勤・在学の方は勤務先または学校名も記入)抽選の場合は市内在住・在勤・在学者を優先。
問合先 生涯学習センター
〒238-0046 西逸見町1-38-11 電話822-4873
URL <http://www.mmjp.or.jp/shogaigakushu/>

「自然ふれあい楽校」サマースクール2013 湘南国際村めぐりの森で自然と触れ合う、自然を学ぶ・考える。

日時	プログラム	対象(募集人数)
① 7月27日(土) 14:00～16:00	第2回三浦半島森づくりフォーラム 基調講演「三浦半島のみどり(生態系)～過去から未来へ～」	中学生以上(50名)
② 7月28日(日) 10:10～15:00	環境カウンセラー養成支援講座	環境活動実践者(10名)
③ 7月28日(日) 10:10～14:30	森の自然観察会	こども～おとな(20名)
④ 7月29日(月) 10:10～14:30	野原と小川の自然観察会：1	こども～おとな(20名)
⑤ 7月30日(火) 10:10～14:30	野原と小川の自然観察会：2	こども～おとな(20名)



場 所 ①・②湘南国際センター、③～⑤湘南国際村めぐりの森

費 用 ①・②1,000円、③～⑤500円

申込期間 7月1日(月)～20日(土) *定員になり次第締め切り

申 込 内容番号(①～⑤複数可)と〒・住所・氏名・年齢・電話・FAX 往復はがき、メール、FAXのいずれかで送信

問合先 三浦半島「自然ふれあい楽校」 〒240-0105 横須賀市秋谷4575-2 野崎方

E-mail miurafureai@gmail.com FAX 046-857-8636



エコ活動みつけた

横須賀市で環境に関する活動をしている団体をご紹介します。

横須賀ほたるの会

1985年に岩戸川にゲンジボタルを再生し、水辺環境を守る活動を開始しました。会員が育てた孵化幼虫や終齢幼虫を放流し、2002年からは岩戸川でホタルが自然発生するようになりました。現在は岩戸川のホタルの発生状況調査、千駄川での観察会の開催などを行っています。

今年も6月16日(日)に千駄川でホタルの観察会を行いました。



連絡先 横須賀ほたるの会代表 三ヶ田 康造
住所 横須賀市岩戸2-6-6
電話 046-849-3308

よこすか自然環境探偵団

よこすか自然環境探偵団は、自然環境の観察や調査を通して、保全と再生に努めています。毎月1回、自然観察会を実施し、定例会で参加者の意見や感想を交換しています。



写真←：ニリンソウ群生地のササ刈り



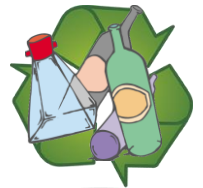
写真→：ニリンソウ観察会にて

連絡先 よこすか自然環境探偵団代表 百瀬 節夫
電話/FAX 046-822-5525

湘南生活クラブ生活協同組合よこすかコモンズ

生活クラブ生協では、消費活動の観点から、持続可能な社会を目指した取り組みを行っています。「自分にも環境にもやさしい暮らし、始めませんか？あなたも、今日から暮らし方を変えませんか？」と呼びかけています。

- *環境に負担をかけず、人にも優しい安心して使えるせっけんの利用をすすめています！
- *容器には、ペットボトルではなくビンを使用しています。このビンをリユースすることにより、CO₂の削減に貢献しています。



あなたも生活クラブと一緒に共同購入しませんか？

連絡先 生活クラブ生活協同組合葉山センター
電話 046-876-0232

お知らせ

環境ポスターコンクール

～小・中学生の描く“環境”を募集します～
募集のテーマ：

- ①環境部門（自然環境保全、地球温暖化防止、緑地保全、水・大気環境保全の啓発）
- ②節電部門（節電や省エネの呼びかけ）

対象：市内在学の小・中学生

規格：B3判か四つ切の画用紙（用紙の向きは自由）

表彰：平成26年2月1日（土）環境フォーラムで表彰予定

締切：9月13日（金）*学校によって締切は異なります

提出：通学先の学校へ

問合：横須賀市環境企画課 電話822-8327

ユーコープ環境活動助成団体募集

レジ袋収益金を原資に、大切な自然環境を守りみどりに満ちた豊かな社会づくりのお手伝いをします。

対象 神奈川・静岡・山梨県内で環境活動を行っている民間団体。

期間 8月1日～平成26年3月20日の活動

助成 1団体あたり上限5万円

締切 7月12日（金）必着

申込 申請書（HPから取得）に提出書類を添えて郵送
*詳しくはHPをご覧ください。

問合先 生活協同組合ユーコープ かながわ県本部
電話045-471-5615

HP http://www.ucoop.or.jp/info/2013/info_17081.html

里山（里地・里山）は、私たちの身近な自然の一つで、人間の生活する空間と自然が作り出す空間が交わる環境です。田畑を潤すため池や小川などの《水辺》、休耕地やあぜ道などに広がる《草地》、燃料となる薪（まき）や炭をとる《雑木林》など、長い間、人間の暮らしが自然と無理なく共存してきたこれらの環境には、私たちが身近に感じる昆虫たちも暮らしています。代表的な昆虫にはゲンジボタルやヘイケボタルが挙げられますが、他にはどんな昆虫がいるのでしょうか。

トンボ：上に挙げたホタルのように、生活の一部または全ての時期を水中で暮らす昆虫を、まとめて「水生昆虫（すいせいこんちゅう）」と呼びます。里山の昆虫の特色の一つは、水辺で暮らす水生昆虫の種の多さです。その一つが、幼虫期を「ヤゴ」として過ごすトンボの仲間です。アサヒナカワトンボやコサナエなど、夏を待たずに羽化するものもいます。

バッタ：跳ねたり飛んだりできても、木のぼりは苦手なせいでしょうか、バッタの仲間にとって草地は欠かせない環境です。多くのバッタは卵で冬越しして春に孵化し、夏には立派な成虫になります。近所の草地で、トノサマバッタを一生けんめい追いかけた思い出を持っている方も、いるのではないのでしょうか。

チョウ：キャベツなどの葉を食べるモンシロチョウやニンジンなどの葉を食べるキアゲハ、ススキなどを食べるジャノメチョウなど、畑や草地に生える植物を餌とするチョウも多く見られます。チョウの仲間は、トンボやバッタに比べ、卵～成虫のサイクルが早いものが多く、春～秋の間に4回もサイクルをくり返すものもいます。草原は、こうしたチョウたちを追いかける格好の場所でしょう。

カブトムシ：夏の雑木林の昆虫ですぐに挙げられるのは、カブトムシやクワガタムシの仲間ではないのでしょうか。カミキリムシの仲間が空けた穴などから多くの樹液が染み出したコナラやクヌギなどの木は、様々な甲虫たちがこぞって集まる、最高の観察場所の一つです。虫たちの餌場あらずに夢中になったり、時々、その中に混じっているスズメバチに驚いたりした方も多いと思います。

横須賀市でも里山の環境が減ったと言われます。それにとともに、ここ数十年であまり姿が見られなくなった昆虫もいます。気候の変化だけでなく、暮らしや土地利用が変わったことによる人間生活と自然との交わりの減少、いわば私たちの「里山離れ」も関係しているのではないのでしょうか。今、里山の大切さについて考える時、かつて身の回りの多くの昆虫たちと遊び親しんだ頃の風景を思い出してみましょう。

（横須賀市自然・人文博物館 内船学芸員）



アサヒナカワトンボ



アサヒナカワトンボのヤゴ



トノサマバッタ



モンシロチョウ



カブトムシとカナブン

みなさまからのECOな情報も募集してます。

発行：横須賀市・環境教育・環境学習ネットワーク会議 協力：横須賀市自然・人文博物館
（発行元）〒238-8550 横須賀市小川町11番地 横須賀市環境政策部環境企画課
TEL 046-822-8327 FAX 046-821-1523
E-mail: ep-ep@city.yokosuka.kanagawa.jp

この情報誌は、横須賀市環境教育・環境学習ネットワーク会議のトライアル事業の一環として発行しております。
「環境教育・環境学習ネットワーク会議」とは、市民・事業者・学校・行政等のさまざまな主体が集まり、連携して市内全体の環境教育・環境学習の推進を図るための会議です。